

角屋蔵

宴にみる清朝陶磁



五彩蝶形向付



青花牡丹唐草文細水指

すみや

角屋もてなしの文化美術館

◆会 期 後期 2026年9月18日(金)～12月13日(日)の金曜日～日曜日および祝日

◆時 間 10時～16時(15時30分受付終了)

◆休館日 月曜日～木曜日 ※ただし祝日の場合公開

◆入館料 一般1000円 中高生800円 小学生500円

*2階座敷は要予約、一度に15名程度。1日4回の定時案内制：①10時15分・②13時15分・③14時15分・④15時15分
入館料のほかに別途料金 一般1000円、中高生700円、小学生以下のご見学はお断りします。

所要時間は1階を含めて約1時間。2階のみの見学不可。

*1階座敷・台所等のご見学は予約不要で定時案内制、一度に20名程度。下記ご案内時間をご参考に來館ください。

1日6回：①10時30分・②11時30分・③12時40分・④13時30分・⑤14時30分・⑥15時30分 所要時間約30分

本チラシご持参の方は、1階入館料を100円引いたします(本チラシ1枚につき1名様有効)

角屋蔵 宴にみる清朝陶磁

江戸期、京都において最大規模の宴会場であった角屋には、現在も四四〇件の陶磁器が伝存しています。そのうちの八九件を中国からの輸入陶磁器が占めています。過去の調査では、その多くが景德鎮窯で焼かれたものでした。器種は取り回し用の大皿・大鉢をはじめ、銘々のお膳にのせる小皿・小鉢・蓋物、お茶やお酒を注ぐ水注・瓶など、さまざまな形態が取り揃えられています。宴会のさまざまな場面を想定して買い求めたようです。

調査を進めると、文政年間（一八一八～三〇）には、ある程度まとまった数の中国陶磁を購入していることがわかりました。たとえば「青花山水風景文隅切長方八角鉢」は、箱書から文政五年に、「青花山水樓閣文人隅蓋物」は、文政六年に購入したことがわかっています。これらの器は描かれた文様や色調に異国的な趣の類似性が認められ、もともとヨーロッパに向けて制作・輸出されていたものと考えられます。

このほか、「五彩蝶形向付」のように一点のみを購入し、大切に保管されていたものも見られます。それだけ貴重なものだったのでしょう。

本展では、購入年代や制作年代のわかる器を中心に、宴に用いられた珍品・名品をご紹介します。さまざまな器のそれぞれの背景なども想像しながら、当時の宴に思いをはせていただけたら幸いです。

主な出品作品

青花鳳凰牡丹文大皿	……	一八世紀	一口	青花龍文蓋碗	……	一八世紀	一口
青花羅漢八仙文大鉢	……	一八世紀	一口	五彩亀甲地に花卉文瓶	……	一六世紀	一口
青花釉裏紅花卉文平碗	……	一七世紀	一口	五彩雨龍花文猪口	……	一七世紀	一口
青花山水樓閣文人隅蓋物	……	一七世紀	一口	五彩絵色替煎茶碗	……	一七世紀	一口
青花牡丹鳳凰文透彫皿	……	一七世紀	一口	五彩菊蘭竹詩文水注	……	一八世紀	一口
五彩蝶形向付	……	一七世紀	一口	朱泥貼花獅子唐草文玉取獅子鈕水注	……	一八世紀	一口
青花山水風景文半開扇向付	……	一八世紀	二口	青花牡丹唐草文細水指	……	一七世紀	一口

作品保護のため下記日程で一部展示替えをおこないます

第1期 9月18日(金)～10月25日(日)
第2期 10月30日(金)～12月13日(日)



五彩亀甲地に花卉文瓶



青花山水樓閣文人隅蓋物



青花牡丹鳳凰縦霞文透彫皿

すみや

角屋もてなしの文化美術館

角屋は、島原開設当初から連綿と建物・家督を維持し続け、江戸期の饗宴・もてなしの文化の場である揚屋建築の唯一の遺構として、昭和27年(1952)に国の重要文化財に指定されました。

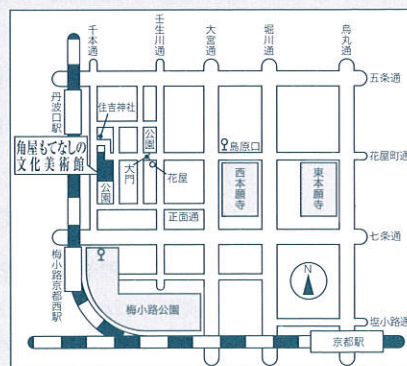
揚屋とは、江戸時代の書物の中で客を「饗すを業とする也」と定義されているところによると、現在の料理屋・料亭にあたるものと考えられます。饗宴のための施設ということから、大座敷に面した広庭に必ずお茶席を配するとともに、庫裏と同規模の台所を備えていることを重要な特徴としています。

所蔵美術品では、昭和58年(1983)に蕪村筆「紅白梅図屏風」が重要文化財に指定されました。また、平成元年(1989)には財団法人角屋保存会が設立され、以来、角屋の重要文化財建造物と美術品等の保存と活用がおこなわれています。さらに平成10年度からは「角屋もてなしの文化美術館」を開館して、角屋の建物自体と併せて所蔵美術品等の展示・公開を行うことになりました。その後平成22年には、角屋の庭が「京都市指定名勝」に、平成24年には同「松の間」が国の「登録文化財建造物」に指定されました。

【交通】

- 阪急電車四条大宮駅 / 市バス南行 206 番、同 207 番：島原口下車、花屋町通を西へまっすぐ（徒歩 10 分）
- JR 梅小路京都西駅 / 駅前の千本通（JR 高架下遊歩道）を北へ、公園前で右折、同公園を左折し北へ（徒歩 8 分）
- JR 丹波口駅 / 駅前の千本通を南へ、住吉神社前の島原西門跡から入る（徒歩 8 分）

※自家用車でのご来館はご遠慮願います。



公益財団法人 角屋保存会

すみや 角屋もてなしの文化美術館

〒600-8828 京都市下京区西新屋敷揚屋町 32
電話 075-351-0024 FAX 075-343-9102
http://sumiyaho.sakura.ne.jp

